

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

39. ヨメナ（キク科シオン属）

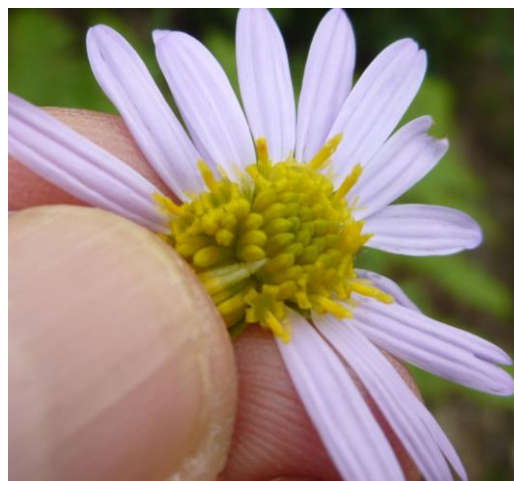
Aster yomena (Kitam.) Honda

2015年10月

畦畔や道ばたなどでやや湿った比較的日当たりのいいところに生育する多年草です。地下茎を伸ばし多くの地上茎を出します。茎は高さ50~120 cm、上部でよく分枝します。葉は粗い鋸歯がある卵状長楕円形で長さ8~10 cm、幅3 cm、表面はほとんど毛がなくやや光沢があります。7~10月ごろに枝先に1個頭花を付けます。頭花は径3 cmほどで淡青紫色の舌状花が1列、多数の黄色い筒状花があります。冠毛は長さ0.5 mmほどです。総苞片は3列で、外片はやや短く先が尖ります。そう果は扁平で倒卵形、長さ3 mmです。分布は本州（中部地方以西）、四国、九州で、姫路市においても普通に見られます。当地域にはよく似たノコンギク (*A. microcephalus* (Miq.) Franch. et Sav. var. *ovatus* (Franch. et Sav.) Soejima et Mot.Ito) が生育しており、一般的にヨメナと混同されています。違いはノコンギクが花柄が短く散房状につくこと、葉の両面に短毛が多くざらつくこと、冠毛が4~6 mmと長いことなどです。ヨメナはよく知られた代表的な山菜で若葉は癖がなく美味で、おひたしなどいろいろに利用されます。万葉集にはウハギの名で摘み草として詠まれています。名前の由来はシラヤマギクを婿菜と呼ぶのに対し、女性的な花姿から嫁菜と呼ばれたと一説にあります。



ヨメナ



ヨメナの冠毛 (0.5 mmほどでほとんど見えない)



ノコンギク